



2026年10月期 第2四半期決算説明会資料

(2025年11月-2026年4月)

2026年6月26日

巴工業株式会社

(証券コード：6309)



ページ	目次	概要
3	2026年10月期 2Q決算概要説明	- 人件費の増加を主因に営業利益は前年同期を若干下回るものの、営業外収益、特別利益の増加により経常利益、当期純利益は前年同期を上回る - 両事業共に収益性が向上し、各利益は当初見通しを上回る進捗
11	2026年10月期 通期業績見通し	- 業績(利益)見通しを上方修正 - 売上高は当初見通しを若干下回るものの3期連続で過去最高を更新する見込み - 各利益はいずれも当初見通しを上回り、営業利益、経常利益は6期連続、当期純利益は3期連続で最高益の更新を見込む
18	配当および株価の状況について	期末配当予想を上方修正(1株当たり4円の増配)し、年間配当金予想を72円から76円に増配
21	トピックス	- 化学工業製品販売事業:次世代半導体市場での商権確立について - 機械製造販売事業:低温廃熱活用分野の立ち上げ状況



2026年10月期 第2四半期決算概要説明

2026年10月期 第2四半期決算



- 売上高は、化学工業製品販売事業が伸び悩んだことから前年同期比1.5%減
- 営業利益は販管費が人件費を中心に増加したことから前年同期比0.2%減となったものの当初見通しを上回る推移

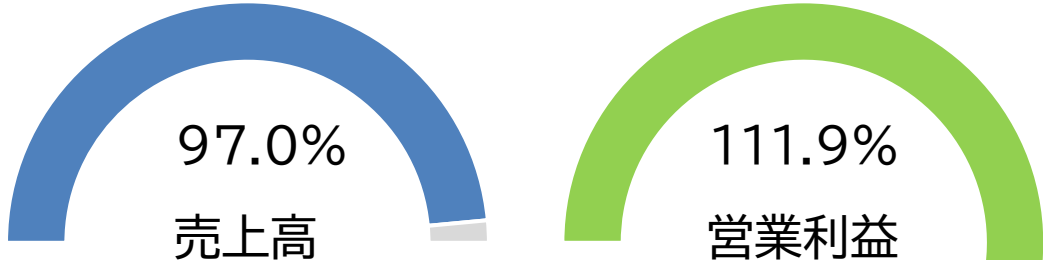
※当期純利益の増加は、主に中国子会社清算に伴う為替換算調整勘定取崩益ならびに政策保有株式の売却益計上による
※中東情勢による影響は現時点では軽微 (単位:百万円)

	25/04	26/04		前年対比	
	実績	実績	(当初上期見通し)	増減	前年比(%)
売上高	31,316	30,849	(31,797)	▲466	▲1.5
営業利益	3,711	3,703	(3,308)	▲8	▲0.2
経常利益	3,726	3,794	—	+67	+1.8
当期純利益	2,565	2,793	—	+227	+8.9

▼通期見通しに対する進捗率



▼上期見通しに対する進捗率



2026年10月期 第2四半期決算 -化学工業製品販売事業-



- 売上高は、鉱産関連の樹脂向け添加剤の減収および合成樹脂関連の中国子会社の清算による販売減少により前年同期比2.1%減
- 営業利益は工業材料、化成品、機能材料、電子材料関連の増益が減収分を補ったことにより前年同期比0.2%増となり上期見通しを上回る進捗

(単位:百万円)

	25/04		26/04			
	金 額	利益率 (%)	金 額	(当初上期見通し)	前年比 (%)	利益率 (%)
売上高	22,479	-	22,008	(22,000)	▲2.1	-
売上総利益	4,589	20.4	4,728	(4,630)	+3.0	21.5
営業利益	1,825	8.1	1,829	(1,630)	+0.2	8.3

▼通期見通しに対する進捗率



▼上期見通しに対する進捗率



2026年10月期 第2四半期決算 -化学工業製品販売事業-



- アンチモン価格高騰により利益率が低下している鉱産関連が大幅減収になったことに加え、工業材料関連等が増収となったことにより全体の利益率は上昇

(単位:百万円)

	25/04	26/04	差 異	主な増減要因
化成品関連	5,385	5,516	+130	コーティング用途向け材料の販売増
鉱産関連	7,246	5,987	▲1,258	アンチモン相場下落、競合他社の供給量回復により減収
工業材料関連	3,093	3,768	+674	建材・耐火物向け材料の販売増
機能材料関連	2,642	2,754	+112	EV市況低迷継続も、半導体製造用途向け材料が増収
電子材料関連	2,159	2,332	+172	市況改善傾向により半導体組立用途向け材料が増収
合成樹脂関連	1,950	1,593	▲356	中国子会社の清算による減収
その他	0	55	+54	低温廃熱活用関連熱交換器の販売実現 ※3/17付リリースご参照
合 計	22,479	22,008	▲470	

2026年10月期 第2四半期決算 -機械製造販売事業-



- 売上高は、民需向け部品・修理ならびに海外向け機械および装置・工事販売の低調を、官需向け全般および海外向け部品・修理販売の好調が補い、前年同期比ほぼ横ばい
- 営業利益は人件費を中心に販管費が増加したことから前年同期比0.7%減となるも、上期見通しを上回る進捗

(単位:百万円)

	25/04		26/04			
	金 額	利益率 (%)	金 額	(当初上期見通し)	前年比 (%)	利益率 (%)
売上高	8,837	-	8,840	(9,797)	+0.0	-
売上総利益	3,876	43.9	3,921	(3,858)	+1.2	44.4
営業利益	1,886	21.3	1,873	(1,678)	▲0.7	21.2

▼通期見通しに対する進捗率



▼上期見通しに対する進捗率



2026年10月期 第2四半期決算 -機械製造販売事業-



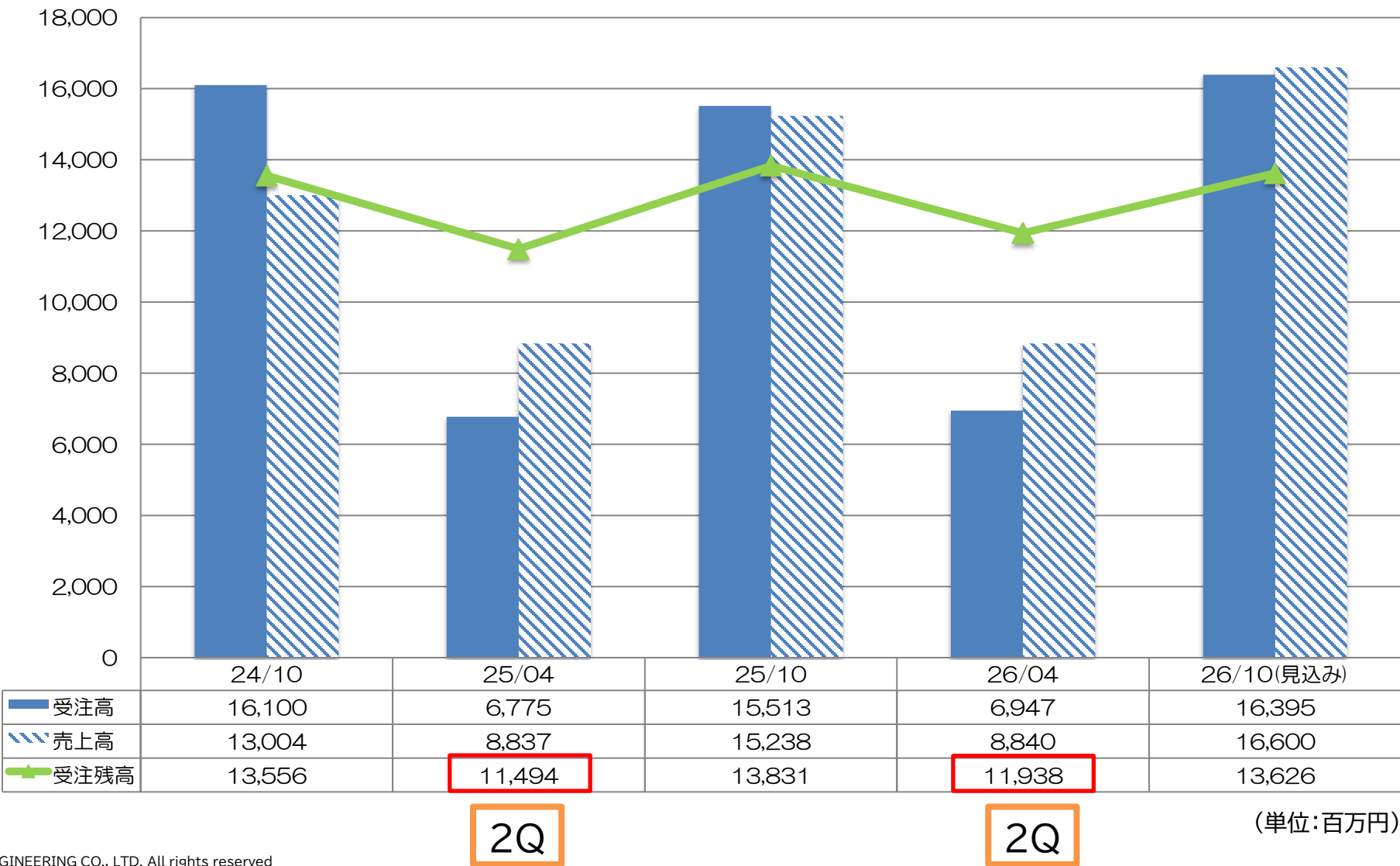
(単位:百万円)

	品目区分	機 械	装置/工事	部品/修理	合 計	主な増減要因
官 需	25/04	393	849	2,516	3,758	・引続き東京、大阪をはじめとした大都市圏での大型機械、元請工事、修理の好調により増収
	26/04	675	953	2,767	4,396	
	差異	+282	+103	+251	+637	
民 需	25/04	830	59	1,644	2,533	・機械販売は、廃プラ向け大型機が好調を維持 ・部品修理は、前期と比べ上期納期の案件が少なかったことにより減収
	26/04	912	19	1,257	2,189	
	差異	+82	▲39	▲386	▲344	
海 外	25/04	825	269	1,449	2,544	・機械、装置工事の減収は、前期に半導体向けの大型案件があったことによる反動減 ・部品/修理はインド、東南アジア、中国向けが好調
	26/04	461	0	1,792	2,254	
	差異	▲363	▲269	+343	▲289	
合 計	25/04	2,049	1,178	5,609	8,837	※新規製商品(第三の柱)の売上は、民需の部品修理に含む
	26/04	2,050	973	5,817	8,840	
	差異	+0	▲204	+207	+3	

2026年10月期 第2四半期受注残 -機械製造販売事業-



- 好調な受注が継続し、受注残は前年同期比で増加し過去最高水準を維持



2026年10月期 第2四半期決算-B/S (連結)-



(単位:百万円)

	25/10	26/04	増減	前年比 (%)	主な増減要因
流動資産	41,756	41,352	▲403	▲1.0	現金及び貯金 ▲1,192 受取手形、売掛金及び契約資産 +610
固定資産	14,629	15,611	+982	+6.7	建設仮勘定 +386 投資有価証券 +385
資産合計	56,385	56,964	+578	+1.0	
	25/10	26/04	増減	前年比 (%)	主な増減要因
流動負債	12,693	11,851	▲841	▲6.6	賞与引当金 ▲831 電子記録債務 ▲810
固定負債	955	1,291	+336	+35.2	
負債合計	13,648	13,143	▲505	▲3.7	
純資産合計	42,737	43,821	+1,084	+2.5	利益剰余金 +1,716
負債・資本合計	56,385	56,964	+578	+1.0	



2026年10月期 通期業績見通し

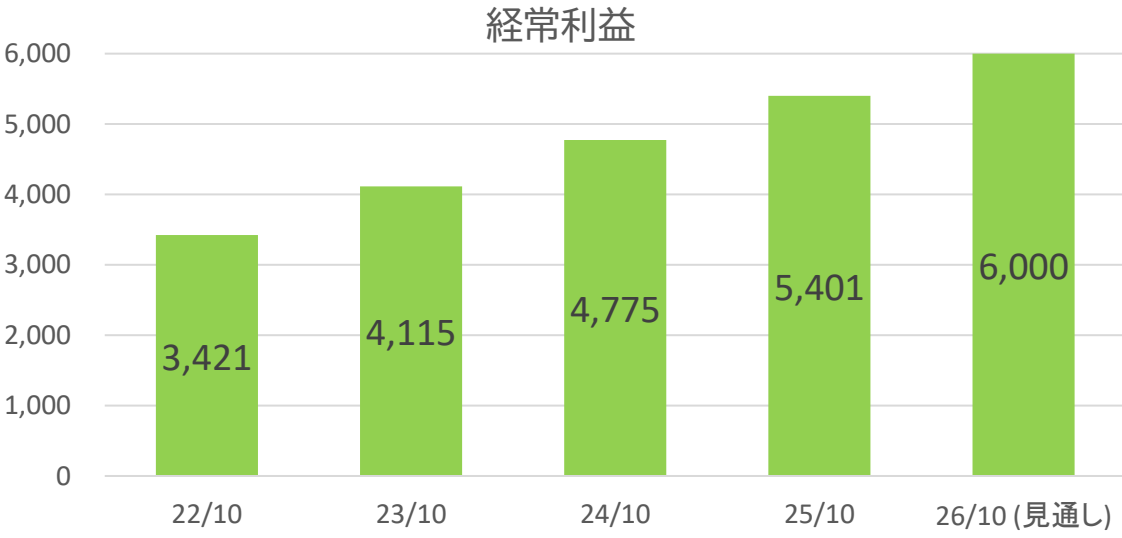
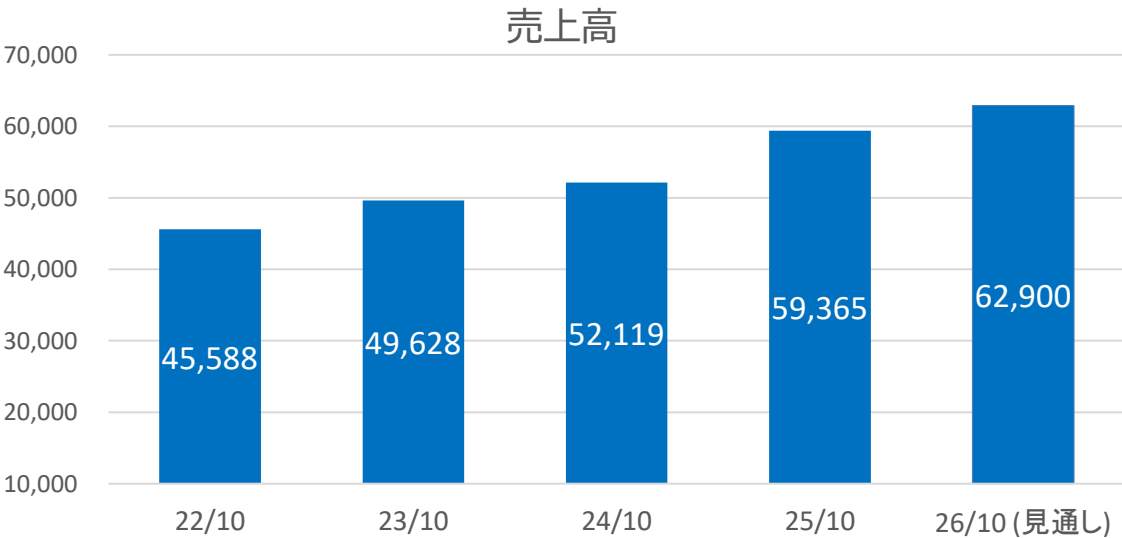
2026年10月期 通期業績見通し



- 業績が好調に推移していることにより各利益の見通しを上方修正
- 売上高は当初予想を下回るものの、過去最高の更新を見込む
- 両事業の収益性改善により各利益いずれも当初予想を上回り過去最高益の更新を見込む

(単位:百万円)

	25/10	26/10				前年対比	
	実 績	上期実績	下期見通し	通期見通し	(当初見通し)	増 減	前年比 (%)
売上高	59,365	30,849	32,051	62,900	(63,200)	+3,534	+6.0
営業利益	5,352	3,703	2,197	5,900	(5,750)	+547	+10.2
経常利益	5,401	3,794	2,206	6,000	(5,770)	+598	+11.1
当期純利益	3,851	2,793	1,607	4,400	(4,200)	+548	+14.2



2026年10月期 通期業績見通し -化学工業製品販売事業-

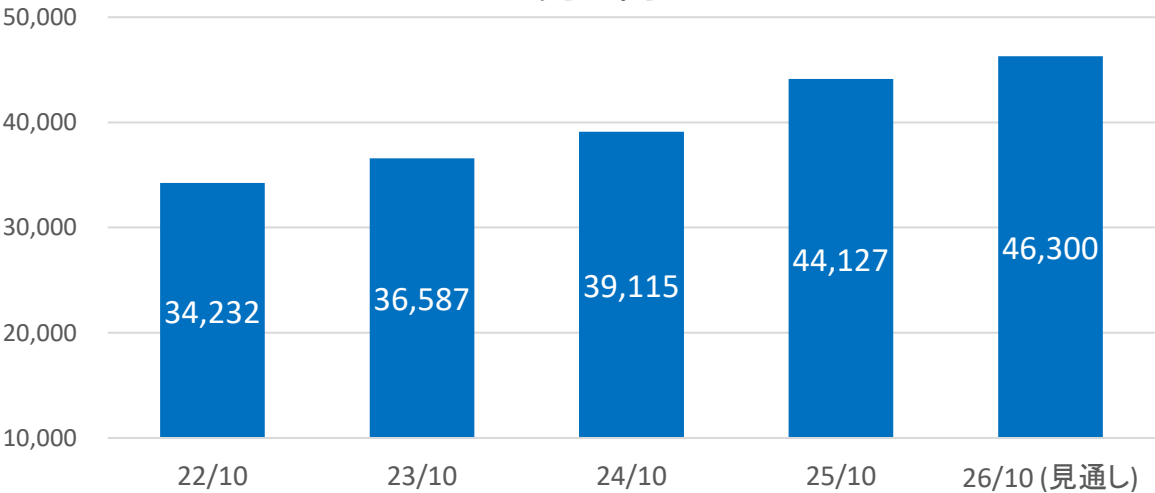


- 工業材料関連を中心とした伸長を見込むことから売上高、営業利益共に当初予想を上回り、売上高は前年度比4.9%増、営業利益は前年度比6.9%増を見込む

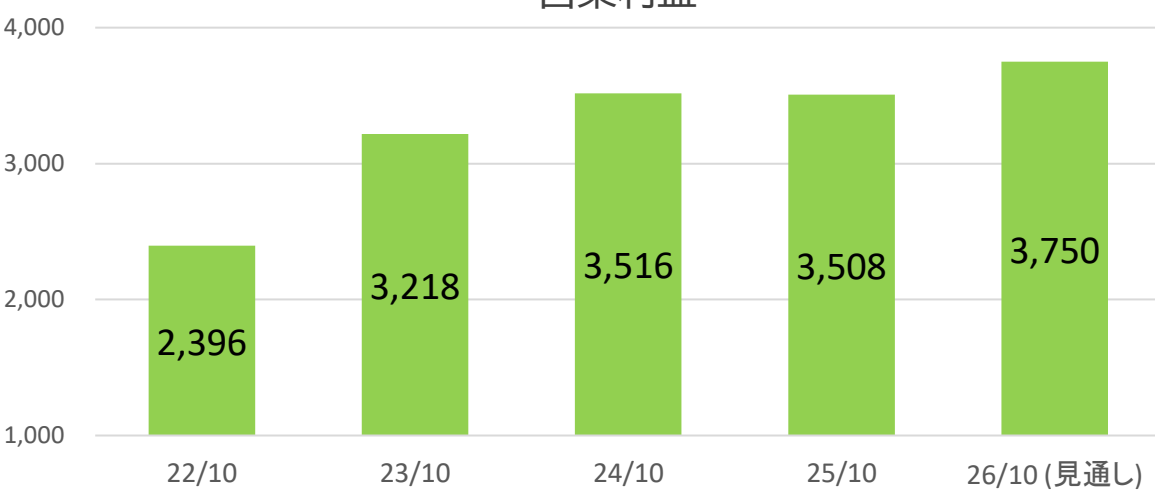
(単位:百万円)

	25/10		26/10					
	実 績	利益率 (%)	上期実績	下期見通し	通期見通し	前年比 (%)	利益率 (%)	(当初見通し)
売上高	44,127	-	22,008	24,291	46,300	+4.9	-	(45,800)
売上総利益	9,122	20.7	4,728	5,021	9,750	+6.9	21.1	(9,670)
営業利益	3,508	8.0	1,829	1,920	3,750	+6.9	8.1	(3,670)

売上高



営業利益



2026年10月期 通期業績見通し -化学工業製品販売事業-



(単位:百万円)

	25/10	26/10			前年差異	主な増減要因
	実績	上期実績	下期見通し	通期見通し	(通期)	
化成品関連	10,483	5,516	5,874	11,390	+907	コーティング用途向け材料の販売増
鉱産関連	13,915	5,987	6,473	12,460	▲1,455	アンチモン相場下落、競合他社の供給量回復
工業材料関連	6,510	3,768	3,872	7,640	+1,130	建材・耐火物向け材料の販売増
機能材料関連	5,227	2,754	3,376	6,130	+903	半導体製造用途向け材料の増収を見込む
電子材料関連	4,368	2,332	2,218	4,550	+182	半導体組立用途向け材料の販売増
合成樹脂関連	3,619	1,593	2,387	3,980	+361	輸入樹脂の販売増により下期の増収を見込む
その他	2	55	95	150	+148	低温廃熱活用関連熱交換器の販売実現
合 計	44,127	22,008	24,292	46,300	+2,173	

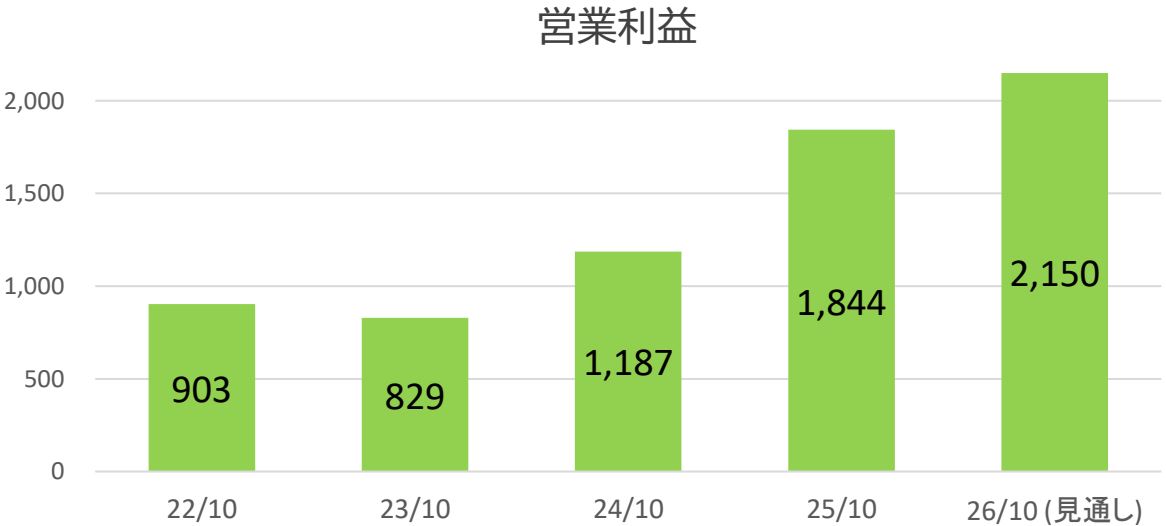
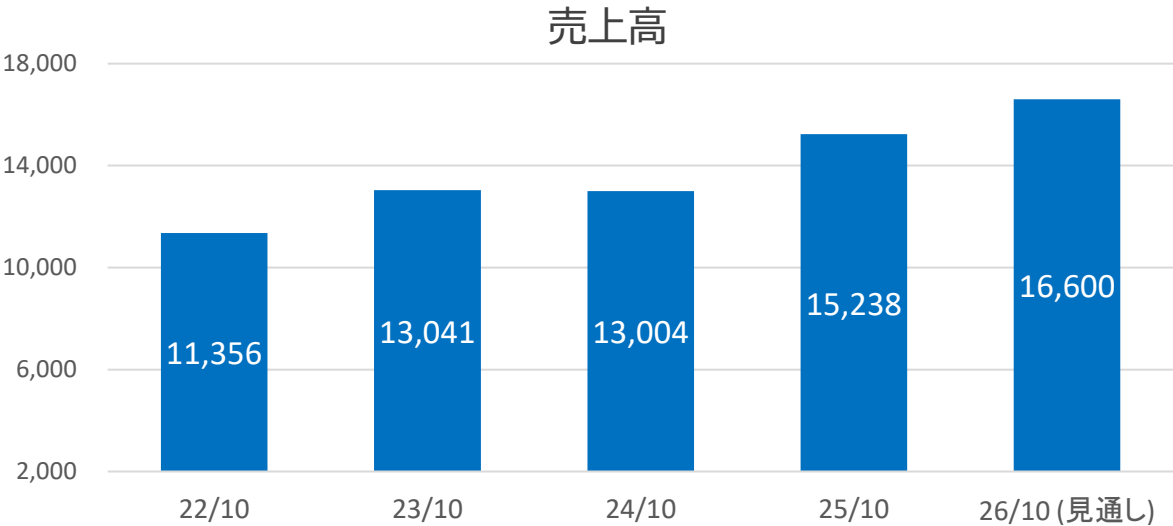
2026年10月期 通期業績見通し -機械製造販売事業-



- 売上高は海外向けの一部物件の繰延により当初予想を下回るものの、民需および海外向け機械、官需および海外向け部品修理販売の伸長により前年度比8.9%増を見込む
- 営業利益は部品修理販売の伸長により当初予想を上回る、前年度比16.6%増を見込む

(単位:百万円)

	25/10		26/10					
	金 額	利益率 (%)	上期実績	下期見通し	通期見通し	前年比 (%)	利益率 (%)	(当初見通し)
売上高	15,238	-	8,840	7,759	16,600	+8.9	-	(17,400)
売上総利益	5,865	38.5	3,921	2,668	6,590	+12.4	39.7	(6,680)
営業利益	1,844	12.1	1,873	276	2,150	+16.6	13.0	(2,080)



2026年10月期 通期業績見通し -機械製造販売事業-



(単位:百万円)

	品目区分	機 械	装置/工事	部品/修理	合 計	主な増減要因
官 需	25/10	1,063	1,509	3,341	5,915	・東京、大阪をはじめとした大都市圏での元請受注の好調により 部品修理の増収を見込む
	26/10	920	1,440	3,800	6,160	
	差異	▲143	▲69	+458	+244	
民 需	25/10	1,427	706	2,807	4,941	・機械は石油化学、廃プラ向け中・大型機により増収を見込む ・装置工事は大型案件の工事が無いため減収を見込む
	26/10	1,900	150	2,740	4,790	
	差異	+472	▲556	▲67	▲151	
海 外	25/10	1,390	269	2,721	4,381	・機械はインド、中国の石油化学向けを中心に増収を見込む ・装置工事は前期に大型案件があったことによる反動減を見込む ・部品修理はインド、東南アジア、中国を中心に増収を見込む
	26/10	1,920	0	3,730	5,650	
	差異	+529	▲268	+1,008	+1,268	
合 計	25/10	3,881	2,485	8,871	15,238	※新規製商品(第三の柱)販売は民需の部品修理に含む
	26/10	4,740	1,590	10,270	16,600	
	差異	+858	▲895	+1,398	+1,361	

2026年10月期 通期業績見通し(上期下期対比) -機械製造販売事業-



- 下期は上期と比べ、部品修理を中心に官需向けの販売が大きく減収することにより上期対比減収を見込む

(単位:百万円)

	品目区分	機 械	装置/工事	部品/修理	合 計	主な増減要因
官 需	上期実績	675	953	2,767	4,396	・官公庁の年度末まで(～3月)に納期が集中することから、 例年通り下期は上期と比べ大幅減収を見込む
	下期見通し	245	487	1,033	1,764	
	差異	▲430	▲466	▲1,734	▲2,632	
民 需	上期実績	912	19	1,257	2,189	・機械は、廃プラ、石油化学が好調に推移 ・装置工事は下期に廃プラ向けの販売を見込む ・部品修理は、好調を維持
	下期見通し	988	131	1,483	2,601	
	差異	+76	+112	+226	+412	
海 外	上期実績	461	0	1,792	2,254	・機械は下期にインドおよび中国向け大型案件の販売を見込む ・部品修理はインドを中心に下期増収を見込む
	下期見通し	1,459	0	1,938	3,396	
	差異	+998	±0	+146	+1,142	
合 計	上期実績	2,050	973	5,817	8,840	
	下期見通し	2,690	617	4,453	7,760	
	差異	+640	▲356	▲1,364	▲1,080	



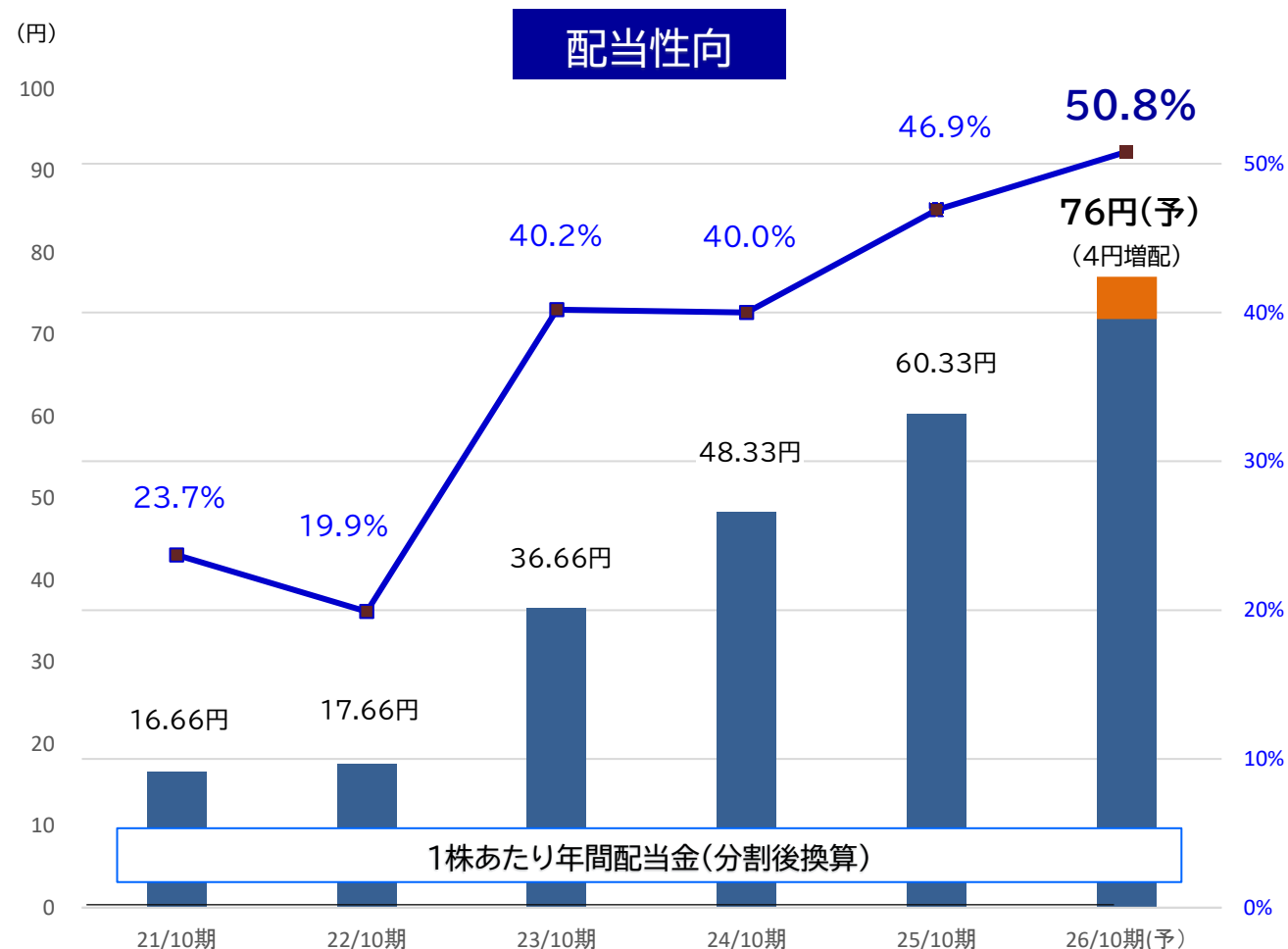
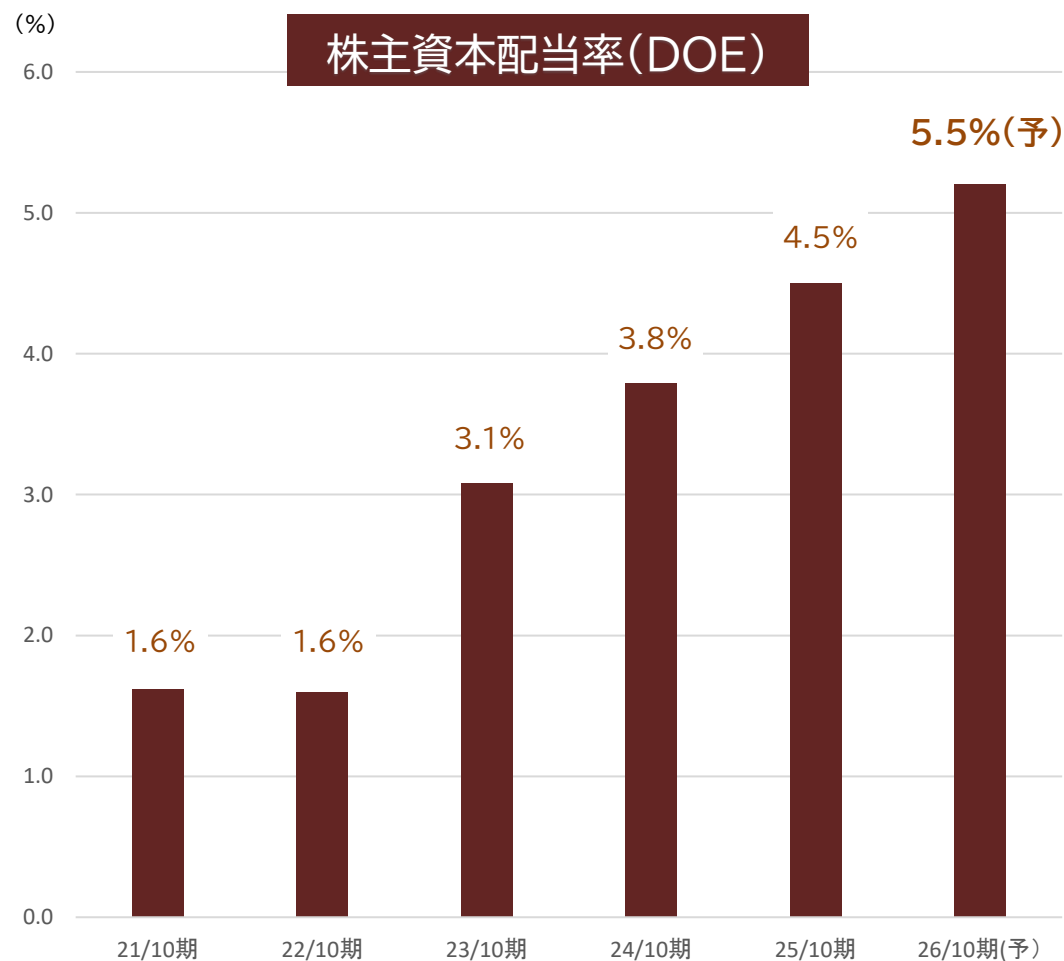
配当および株価の状況について

配当金の推移



- 現中期経営計画期間中における配当方針:

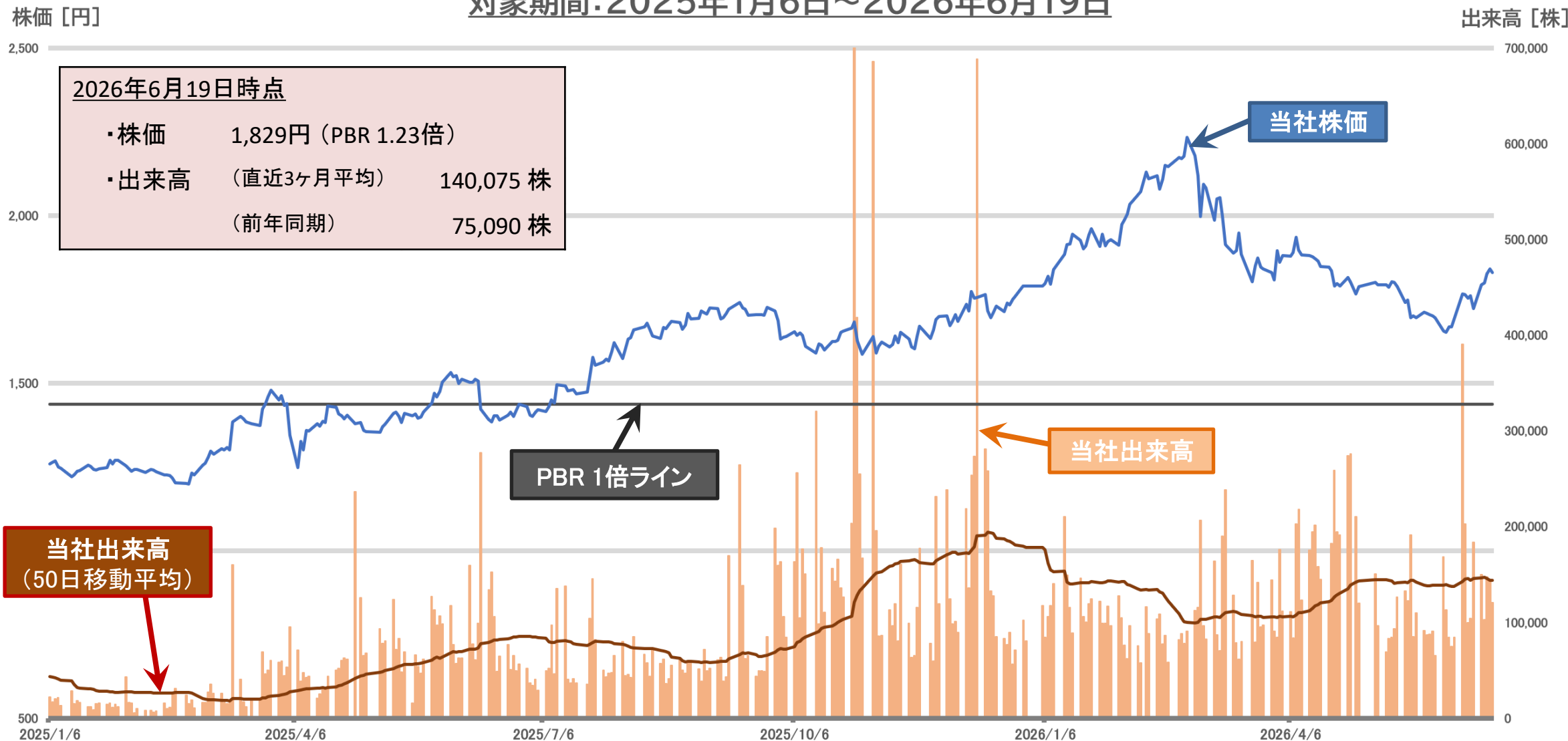
『**株主資本配当率(DOE)5%を下限**とし、**連結配当性向50%以上** とすることで安定的且つ継続的な配当を実施する』



株価と出来高推移



対象期間: 2025年1月6日～2026年6月19日





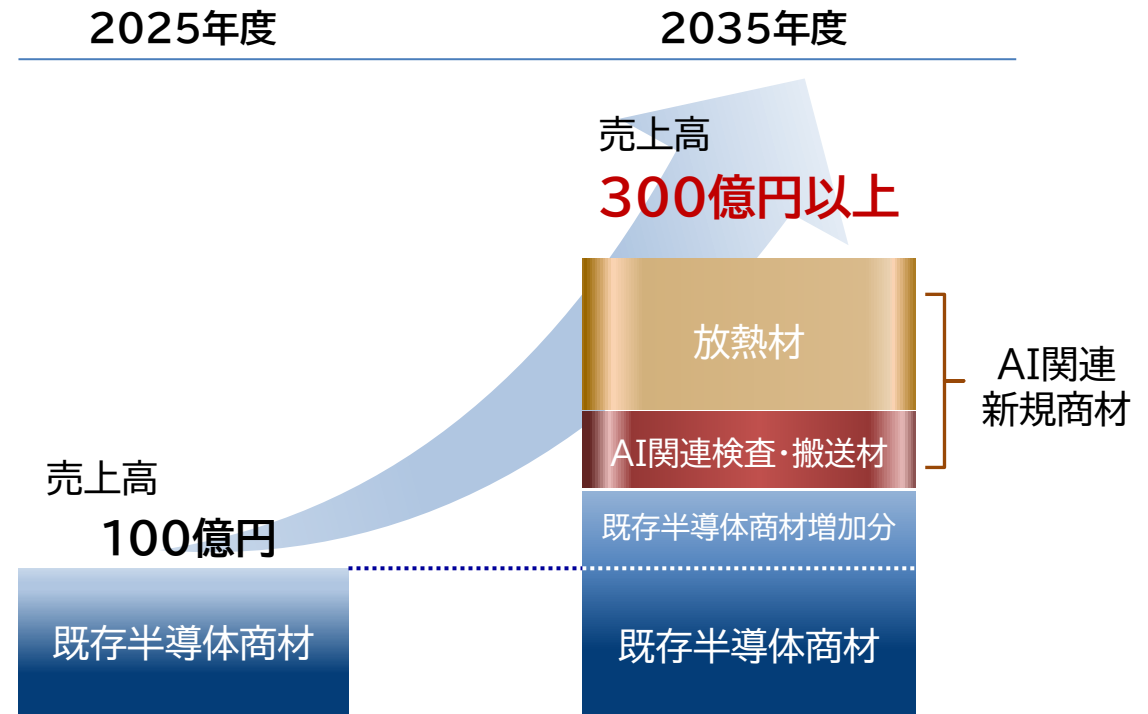
トピックス

化学工業製品販売事業の半導体分野について ～AI関連事業を次の柱へ～



- 当社は、中期経営計画『Create The New Future』において、機能材料および電子材料分野における「次世代半導体市場での商権確立」を重要テーマと位置付け、既存商材および新商材の拡大を進めてまいります。
- 既存半導体商材は、業界トップシェアの組立工程、搬送・検査工程向けを50億円プラス、計150億円へ売上増
- 新規商材の「放熱材」は100億円、「AI関連検査・搬送材」は50億円、計150億円の売上増
- 当社の2035年の半導体商材売上は、現状の100億円から3倍の合計300億円を目指します。

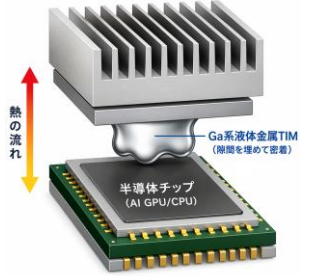
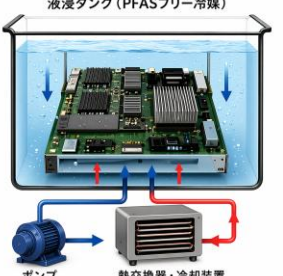
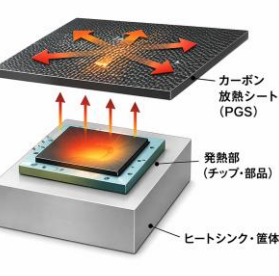
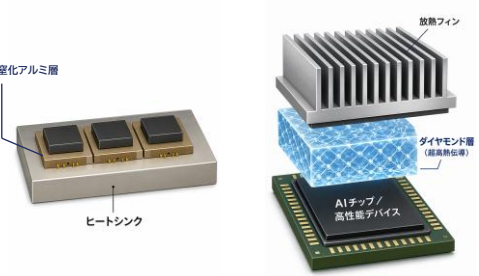
熱問題が新たな市場を創出



AI時代における熱マネジメント戦略



- 当社は、「発熱」という課題を解決する「放熱材」に着目し、液体冷却から材料部材まで「熱マネジメント」の幅広い階層をカバーする放熱ソリューションを提供し、AI半導体・パワーデバイスの高性能化と安定稼働に貢献します。
- そして、前回大きな成果を上げたパワー半導体製造装置向け部材に次ぐ注力分野として、「熱マネジメント」領域での成長を取り込むポジションを目指してまいります。

放熱材 (商材例)	① Ga系合金化合物 (液体金属TIM) イメージ図 	② PFASフリー液浸冷媒 (液浸冷却用冷媒) イメージ図 	③ カーボン放熱シート製品 (グラファイトシート/PGS) イメージ図 	④ 高熱伝導セラミックス材料 A 窒化アルミ (AlN) B ダイヤモンド材料 イメージ図 イメージ図 		
	ターゲット市場	AI用GPU/CPU	AIデータセンター HPCサーバー	AIサーバー・通信機器 パワーモジュール EV電池・インバータ等	SiC基板 GaNパワーモジュール	
	市場規模 (グローバル)	【2025推定】\$ 25億 ▼ 【2035予測】\$ 55億+	【2025推定】\$ 24億 ▼ 【2035予測】\$ 50億+	【2025推定】\$ 5億 ▼ 【2035予測】\$ 20億+	【2024推定】\$ 12億 ▼ 【2032予測】\$ 27億	今後、超高熱用途で 急拡大領域
	2035年度 売上高目標	100億円以上				

低温廃熱活用分野<前回:3月27日ご説明>の立ち上げ状況

機械事業<第二の柱>



- 第1四半期決算説明時において、機械事業の<第二の柱>と位置付けるバイナリー発電装置をはじめとした『低温廃熱活用分野の製品ラインナップ拡充および新たな販売体制構築』についてご案内いたしました。
- その後の3ヶ月間で、60件を超える新規納入案件の引き合いを獲得し、受注見込案件は累計で10億円超へ積み上がるなど、順調な立ち上がりとなっております。
また、事業譲渡により引き継いだ既存納入先からも、多数のメンテナンス案件を継続的に受注する見込みです。
- 本分野は、当社の成長ドライバーとして10年後に売上100億円以上を目指す重要テーマであり、当初想定を上回るマーケット反応を背景に、今後の大幅な受注拡大および事業成長の加速に向けた確かな手応えを得ております。



低温廃熱活用分野の進捗状況

※化学品事業として取扱中

排熱の温度帯	当社製品の廃熱活用方法	当社製品ラインナップ	進捗状況	売上計上開始時期
0～80℃	熱利用	熱交換器ならびに関連設備 ※	チタン製・樹脂製など用途に応じた熱利用システムを提供 引き合い案件多数 第1号案件契約済	当期(2026年10月期)～
80～150℃	発電	バイナリー発電装置 30kW	引き合い案件多数 第1号案件受注見込	翌期(2027年10月期)～
		 バイナリー発電装置 125KW	第一実業株式会社様からの引継先中心に、新規納入・メンテナンス案件ともに引き合い多数(計30件超) 新規納入・メンテナンス案件ともに複数受注見込	【新規納入案件】 翌々期(2028年10月期)～ 【メンテナンス案件】 当期(2026年10月期)～
150～250℃	発電	 マイクロ蒸気発電装置	引き合い案件多数 複数案件受注見込	翌期(2027年10月期)～



<注意事項>

本資料に掲載されている業績予想等は、当社が現時点で入手可能な情報から得られた判断に基づいており、実際の業績は様々なリスクや不確定な要素などの要因により異なる可能性があります。

IRに関するお問い合わせ
巴工業株式会社
経営企画部 IR・企画課
E-mail : ir-info@tomo-e.co.jp